

女性だけのワークショップが始まりました

岐阜県美濃加茂市では、地方創生のプランを女性に特化して「Caminho（道）」と命名しました。2015年はその基礎を考えました。2016年は事業化を企画します。そのために女性だけでワークショップを始めました。

☆「Caminho」とは？

ポルトガル語で「道」のこと。かつて「姫街道」と呼ばれた中山道にちなんで、女性たちが歩いていく長い人生の旅路の中で、安心して歩ける、夢が叶えられる、ほっとできる、そんな美濃加茂市になりたいという想いから名付けました。

美濃加茂市はブラジル人をはじめとする、多様な国籍の人が暮らす多文化共生のまちであるため、より多くの人に親しみを持ってもらえるよう、タイトルにポルトガル語を使用しています。（Caminho より）

女性が活躍できる5つのステージを想定して、各ステージで女性の夢がかなうようなプランを企画し、実行していくのです。

☆女性だけのワークショップ

高校生や20代～50代の女性が集まりました。高校生が入ってくれるのはとても喜ばしく、参加したみなさんも高校生の気持ちを引き出しながら進めてくださいました。また、一般の市民だけでなく、行政側の女性もメンバーになってくださり、保育士の立場や保健師の立場からも意見が出て、とても活発な場になっています。

1970年代の歌謡曲などを歌い、観客を楽しませた合唱団GMCのメンバーたち—岐阜市のふれあい福寿会館のサランカホールで

中心となる女性活躍推進市民会議委員に委嘱状を手渡し「女性目標の思いを実現していきたい」とあいさつ。参加者は5つのグループに分かれて「子どもを預ける施設が少ない」といった課題を挙げながら一市役所の中に病児保育できる場所を設けては」と活発に意見を交わしていた。（平井一敏）

に女性約二十五人が集まり、新しい子育て支援のアイデアなどを話し合った。写真。女性をターゲットにした同市の地方創生総合戦略「カミーノ」に基づき市がメンバーを公募して初開催。十一月まで至五回開かれ、参加者は新事業の計画を作り市に提案、来年度以降の本格実施にも関わって、初回のこの日は、藤井浩人市長が冒頭で、

女性が活躍できるまちづくりを考える美濃加茂市女性活躍推進委員会主催のワークショップが四日、美濃加茂市生涯学習センターであった。同市内の二十〜三十代を中心

☆ふりかえりでは

美濃加茂市に来て、思うことはいろいろあったのだけれど、これからは自分の手で実現できるのだと思うと、とてもうれしいしやりがいがあります。というとても心強い感想をいただきました。

市も来年度の予算をかなりとってくださいました。こんなに事業化への道が見えるワークショップは初めてです。参加しているみなさんの励みにもなります。

☆心強い感想は、進めていく側からするとプレッシャーにもなります。みなさんの想いが実現するように！と気持ちを引き締めながら、楽しく進んでいます。こんな機会をいただいたことに感謝しています。